



【先週 10月10日～10月16日の外食の出来事】

■サイゼリヤ、今期純利益5倍の86億円 アジア事業けん引

2022年8月期の連結純利益が前期比5倍の86億円になる見通しだと発表した。中国をはじめとするアジア事業が伸び、国内事業も部門黒字へ浮上する。ただ、増益要因としては時短協力金の押し上げ効果が大い。

■吉野家、黒字転換 コスト削減、時短協力金一8月中間決算

8月中間連結決算は、純損益が31億円の黒字となった。子会社売却に加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、売上高は減少したが、コスト削減や営業時間短縮に伴う自治体からの協力金などで収益面が改善した。

■コメダHD、60%増益 3～8月最終 郊外店の集客堅調

2021年3～8月期の連結決算は、純利益が前年同期比60%増の25億円だった。新型コロナウイルスが流行する前の19年の同じ時期と比べると4%減。「コメダ珈琲店」は郊外店が中心で客足の落ち込みは小さい。

■プレナス、2022年2月期 上半期(2021年3月～8月)の連結業績

2022年2月期 第2四半期の連結業績は売上高710億3200万円(対前年同期比4.2%増)、営業利益21億4400万円(-)、経常利益38億800万円(-)、四半期純利益21億2500万円(-)と増収増益を確保した。

■クリレスHD 最高益へ、最終黒字65億円 22年2月期

22年2月期の連結最終損益が65億円の黒字(前期は138億円の赤字)になる見通し。従来予想を35億円上回り、最高益になる見通しだ。郊外店の回復や自治体からの時短協力金の計上、合理化などが寄与する。

■リンガーハット下方修正、営業赤字13億円 22年2月期

2022年2月期の連結営業損益が13億円の赤字(前期は54億円の赤字)になる見通しだと発表した。従来の4億円の黒字予想から一転、赤字になる。新型コロナウイルス禍による緊急事態宣言の長期化が響く。

■外食28社、集客へ共通販促 割引や無償提供

吉野家など外食関連企業28社でつくる「#外食はチカラになる実行委員会」は、共通ロゴを掲げた集客キャンペーンをする。89ブランドの全国約9400店舗が参加し、年末にかけて一部商品の割引や無償提供などをする。

■出前館、止められぬ販促費 今期営業赤字500億円超

料理宅配の出前館は、2022年8月期の連結営業損益が500億～550億円の赤字(前期は179億円の赤字)になる見通しだと発表した。利用者の囲い込みへ販促費が膨らみ、前期の売上高(290億円)を超える水準となる。

■串カツ田中、インフォマートと店長代行アプリ開発

株式会社串カツ田中ホールディングスが、株式会社インフォマートと、店舗運営の生産性を向上させるアプリ『店舗運営プラットフォームアプリ(仮称)』の開発のために合弁会社を設立する。